

令和 8 年 度

県営土地改良（農業用ため池整備事業）事業計画書

都 道 府 県 名	： 福 岡 県
地 区 名	： 堤 つつみ （ 昭 和 しょうわ ）
所 在 地	： 朝 倉 市
事 業 主 体	： 福 岡 県

目 次

第1章	目 的	1	第6節	地 域 環 境 の 概 況	26
第2章	地 域 及 び 地 積	1	第4章	一 般 計 画	27
第1節	地 域	1	第1節	事 業 計 画 の 要 旨	27
第2節	地 積	2	1	要 旨	27
第3章	現 況	3	2	事 業 別 面 積	27
第1節	気 象 及 び 海 象	3	第2節	営農計画及び土地利用計画	28
1	一 般 気 象	3	1	営 農 計 画 の 概 要	28
2	特 殊 気 象	3	2	土 地 利 用 区 分	28
3	海 象	4	3	作 付 方 式	29
第2節	土 地 状 況	4	4	生 産 計 画	30
1	地形、土壌及び侵食の程度	4	5	労 働 改 善 計 画	31
2	土 地 分 類	6	6	級地別土地利用区分	32
3	土 地 利 用 の 状 況	7	7	土 地 配 分 計 画	33
4	土 地 所 有 の 状 況	8	第3節	用 水 計 画	33
第3節	水 利 状 況	9	1	計 画 基 準 年	33
1	用 水 状 況	9	2	計 画 か ん が い 方 式	33
2	排 水 状 況	17	3	計 画 用 水 系 統	33
3	河 川 状 況	20	4	計 画 用 水 量	34
第4節	道 路 現 況	21	5	水 源 計 画	37
1	道 路 概 況	21	第4節	排 水 計 画	42
2	主 要 道 路 一 覧 表	21	1	計 画 基 準 雨 量	42
第5節	地 域 農 業 の 概 況	22	2	計 画 排 水 方 式	42
1	産 業 別 就 業 人 口	22	3	計 画 排 水 系 統	42
2	経営耕地広狭別農家数及び耕地の 分散状況並びに専兼業別農家数	23	4	計 画 排 水 量	43
3	動力農機具及び主要家畜頭数	23	5	排 水 対 策	44
4	主 要 作 物 作 付 状 況	24	6	湛 水 検 討	46
5	農 業 の 動 向	25	第5節	道 路 計 画	47
			1	道 路 及 び 索 道	47
			2	路 線 配 置 図	48

第6節	農用地造成計画	49
1	農用地造成計画	49
2	土壌改良	49
第7節	洪水調節計画	50
1	計画基準雨量	50
2	計画洪水量及び調節量	50
3	貯水池	50
4	洪水調節検討	51
5	管理計画	51
第8節	干拓計画	52
第9節	農用地整備計画	53
1	区画整理	53
2	暗渠排水	55
3	客土	56
4	農地保全	56
第10節	老朽ため池改修計画	57
1	洪水吐改修計画	57
2	堤体補強計画	57
3	取水施設改修計画	57
第5章	主要工事計画	58
第1節	用水施設	58
1	貯水池	58
2	頭首工	58
3	揚水機	59
4	用水路	59
5	その他のかんがい施設	59
第2節	排水施設	60
1	排水水門	60
2	排水機	60
3	排水路	61
4	その他排水施設	61

第3節	道路及び索道	62
1	道路	62
2	索道	63
第4節	農用地造成	64
1	農用地造成	64
2	土壌改良	65
第5節	洪水調節施設	66
1	貯水池	66
2	頭首工及び導水施設	66
第6節	干拓施設	67
1	堤防	67
2	潮止め	67
3	付属施設	67
4	埋立	67
第7節	農用地整備施設	68
1	区画整理	68
2	暗渠排水	69
3	客土	70
4	除礫	70
5	農地保全	71
第8節	老朽ため池改修施設	72
1	貯水池	72
2	堤体補強施設	72
第6章	附帯工事計画	73
第7章	工事の着手及び完了の予定期間	73
第8章	環境との調和への配慮	74

第9章	換地計画の概要	75
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	75
第2節	換地区の設定	75
1	換地区の名称、所在、面積	75
2	換地区を設定する理由	75
第3節	換地計画樹立の基本方針	75
1	従前の土地の面積の基準	75
2	用途別予定地積	76
3	農用地集団化の方針	77
4	非農用地の換地方法	77
第4節	土地の評価及び清算の方法	78
1	評価の方法	78
2	精算の方法	78
第5節	換地計画樹立の年度計画	78
第6節	換地処分の特則	78
第10章	事業費の総額及び内訳	79
第11章	効用	81
第12章	関連する事業	84
第13章	現況・計画図面	
1	計画平面図	別途図面添付
2	主要構造図	別途図面添付

第1章 目 的

- (1) 必要性 昭和池は、昭和11年度に造成されており、農業用用水の水源として利用される重要な施設である。
しかしながら、洪水吐は断面不足となっており、取水施設は老朽化し、堤体は地震発生時に破堤の恐れがある。
以上のことから、本事業により堤体、取水施設、洪水吐の改修を行い、ため池機能回復と農業生産の維持及び農業経営の安定化を図る。
- (2) 緊急性 堤体下流側からは漏水が見られ、洪水吐は断面不足により十分な洪水排除能力を有していないため、破堤のリスクがある。
破堤した場合、土砂流出等により下流の農地及び公共施設、民家等に甚大な被害が発生すると予測されるため、早急な対策が望まれる。

第2章 地域及び地積

第1節 地 域

事 業 名	地 域
農業用ため池整備事業	福岡県朝倉市堤

第2節 地 積

(R7年3月現在)

(第2表)

事業名	現況地目	田 (ha)	畑 (ha)	原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備 考
	市町村名							
農業用ため池整備事業	朝倉市	2.1	—	—	—	—	2.1	
	計	2.1	—	—	—	—	2.1	
合 計		2.1	—	—	—	—	2.1	

第3章 現 況

第1節 気象及び海象

1. 一 般 気 象

(第3表－1)

観測所名	朝倉観測所	かんがい期	非かんがい期	計 又は平均	備 考
観測期間	1991年～2020年	4月～10月	11月～3月		
平均気温 (℃)		21.7	7.8	15.9	気象庁ホームページより (平年値：1991～2020)
降水量	平均 (mm)	1,531.4	421.7	1,953.0	
	基準年 (mm)	—	—	—	
降水日数	平均 (日)	72.4	46.1	118.6	
	基準年 (日)	—	—	—	
根雪期間		月 日 ～ 月 日	— 日間		
無霜期間		月 日 ～ 月 日	— 日間		
最多風向		西北西	最大風速 (風向)	20.0 m/s 南	最多風向発生時期 最大風速発生年月日 2019/9/22

2. 特 殊 気 象

(第3表－2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位		
朝倉観測所															
観測期間	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率
1976年～2023年															
最大日雨量 (mm)	516.0	2017/7/5	1/650	295.5	2018/7/6	1/30	290.5	2023/7/10	1/25	253.5	2020/7/6	1/15	252.5	2019/7/21	1/15
最大時間雨量 (mm)	129.5	2017/7/5	1/5500	80.0	2022/8/24	1/20	74.5	2009/8/15	1/10	72.5	2023/7/10	1/10	69.0	2004/9/19 2020/6/27	1/8
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最大連続雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
最大連続干天日数 (日)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 海 象

(第3表-3)

観測所名		既往最高	さく望平均	上下弦平均	平均潮位	上下弦平均	さく望平均	既往最低	備 考
観測期間	年～ 年	潮 位 (m)	満 潮 位 (m)	満 潮 位 (m)	(m)	干 潮 位 (m)	干 潮 位 (m)	潮 位 (m)	
	該当なし								

第2節 土 地 状 況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑 ・ そ の 他								受益地標高 (m)		備 考
	傾斜 以下	1/1,000 以下	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	計	3° 以下	3° ～ 0°	0° ～15°			15° ～ 20°	20° 以上	計	最 高	最 低		
		0° ～ 10°	10° ～ 15°	0° ～ 15°														
農業用ため池整備事業	面積 (ha)		2.1				2.1								0.0	40.0	33.0	
	比率 (%)		100				100								0			
	面積 (ha)																	
	比率 (%)																	
合 計	面積 (ha)		2.1				2.1								0.0			
	比率 (%)		100				100								0			

(第4表-1-2)

土 壤 統 (区) 名	項 目	土 壤 統 (区) 区 分 一 覧 表									面 積 (ha)			備 考
		土 壤 断 面							堆 積 様 式	母 材	事 業 名		計	
		色	腐 植	礫 層	酸化沈殿物	土 性					泥 炭 層 黒 泥 層 及 び グライ層			
						表土	下 層 土							
						一層	二層	三層						
砂質片岩	黒灰色	－	－	－	－	－	－	なし	水積	片岩	2.1		2.1	
計		－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.1		2.1	

(第4表-1-3)

事業名	区 分	土 壌 の 流 亡 率				年 平 均 流 亡 速 度				ガリ浸食の程度		備 考
		0	0～ 25%	25～ 50%	50% 以上	0	3mm 未満	3～ 5mm	5mm 以上	中 程 度 の も の	大 な る も の	
	面 積 (ha)			該 当 な し								
	比 率 (%)											

2. 土 地 分 類

(第4表-2-1)

市町村名	級地別	農 用 地 造 成										計 (ha)	備 考	
		一級地	二 級 地				三 級 地				四 級 地			
			※ (ha)	3° ～ 0° (ha)	0° ～ 12° (ha)	12° ～ 15° (ha)	※ (ha)	15～ 20° (ha)	20° ～ 25° (ha)	25° ～ 30° (ha)	※ (ha)			30° 以上 (ha)
					該 当 な し								※ は傾斜以外の要因によるもの	
計														

(第4表-2-2)

市町村名	級地別	干 拓					備 考
		一 級 地 (ha)	二 級 地 (ha)	三 級 地 (ha)	四 級 地 (ha)	計 (ha)	
			該 当 な し				
	計						

3. 土地利用の状況

(R7年3月現在)

(第4表－3)

事業名	市町村名	土地利用別	耕 地					山 林		採草放牧地	原 野	そ の 他	計	備 考
			水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	茶 園 (ha)	そ の 他 の 地 (ha)	用 材 林 (ha)	薪 炭 材 (ha)				
農業 用ため池 整備事業	朝 倉 市		2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.1	
	計		2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.1	
	計													
	計													
合 計			2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.1	

4. 土地所有の状況

(R7年3月現在)

(第4表-4)

事業名	所 有 別 区 分	個 人 有	国 有	県 有	町 有	計	備 考
農業用ため池整備事業	面 積 (ha)	2.1				2.1	
	受 益 者 数 (人)	9				9	
	筆 数 (筆)						
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)	9				9	
	面 積 (ha)						
	受 益 者 数 (人)						
	筆 数 (筆)						
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						
	面 積 (ha)						
	受 益 者 数 (人)						
	筆 数 (筆)						
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)						
合 計	面 積 (ha)	2.1				2.1	
	受 益 者 数 (人)	9				9	
	筆 数 (筆)						
	権 利 関 係						
	備 考 (関係戸数)	9				9	

第3節 水 利 状 況

1. 用 水 状 況

(1) 用 水 系 統

昭和池 → 受益地 A=2.1ha q = 0.024m³/s

(別紙現況用水系統模式図参照P. 11)

(2) 用 水 施 設

(ア) 取水方法一覧表

(第5表－1)

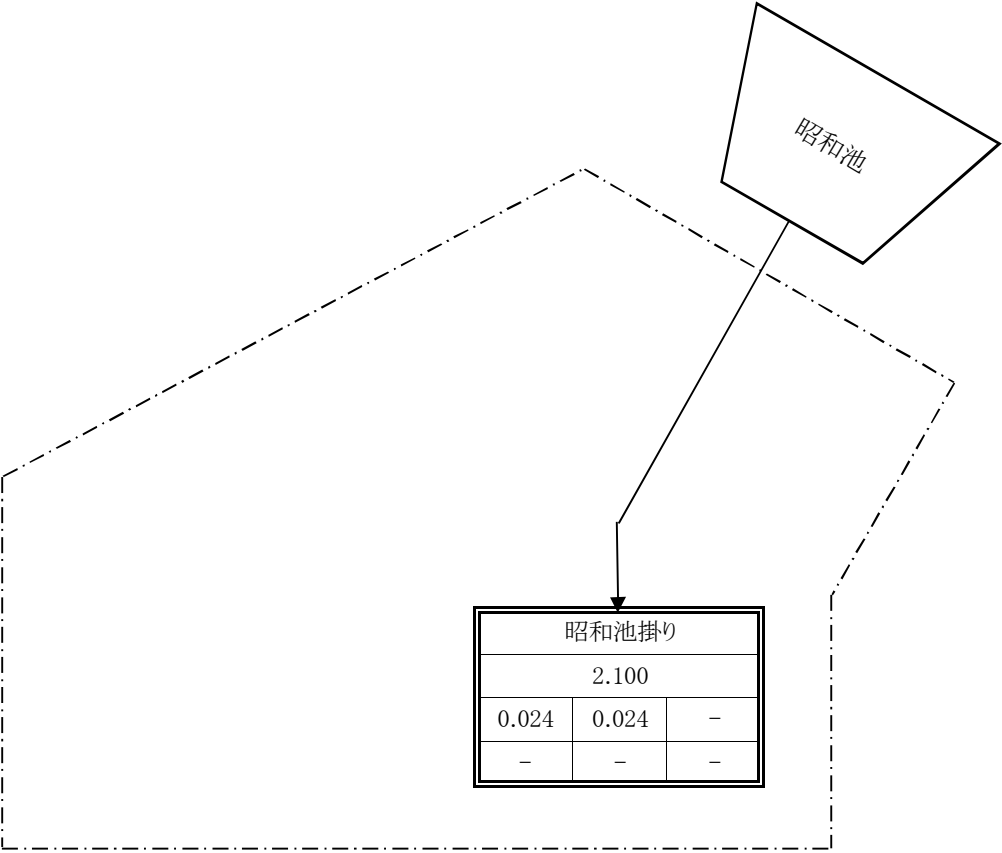
事業名	項 目	かんがい面積						計		水利権		慣行水利権		延べ取水量	備 考
		500ha以上		500～100ha		100ha以下									
	施設名	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m³/s	箇所	m³/s	m³/s	
農業用ため池整備事業	貯 水 池					1	2.1	1	2.1			1	0.024		代掻き期： 7 日
	井 堰														
	自然取入口														
	揚 水 機														
	そ の 他														
	計					1	2.1	1	2.1			1	0.024		
	貯 水 池														
	井 堰														
	自然取入口														
	揚 水 機														
	そ の 他														
	計														
	貯 水 池														
	井 堰														
	自然取入口														
	揚 水 機														
	そ の 他														
合 計					1	2.1	1	2.1			1	0.024			

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項 目 施設名	施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年 又は 更 新	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
	施設名							
農業 用ため池 整備事業	貯 水 池	1	2.1	均一型	41,875m ³	不明	堤体の老朽化に伴う漏水の増加	
	貯 水 池							
	井 堰							
	自 然 取 入 口							
	揚 水 機							
	用 水 路							
	そ の 他							
	計	1	2.1					
	貯 水 池							
	井 堰							
	自 然 取 入 口							
	揚 水 機							
	用 水 路							
	そ の 他							
	計							
	貯 水 池							
	井 堰							
	自 然 取 入 口							
	揚 水 機							
	用 水 路							
	そ の 他							
	計							
合 計		1	2.1					

現況用水系統図



凡	例
記 号	名 称
	既 設 水 路
	頭 首 工
	貯 水 池
(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ト) (ホ) (ヘ) (ト)	地 区 外
(イ) (ロ) (ハ) (ニ) (ト) (ホ) (ヘ) (ト)	地 区 内
(イ)	路 線 名
(ロ)	灌 漑 面 積
(ハ)	代掻期粗用水量
(ニ)	代掻期利用可能量
(ホ)	普通期粗用水量
(ヘ)	普通期利用可能量
(ト)	不 足 水 量

(3) 用水に関する被害状況

(7) 用水不足による被害状況

(第5表-3-1)

事業名	項 目 系統名	かんがい 面 積 (ha)	現 況 必要水量 (千m ³)	不 足 水 量				平均減産量		備 考
				かんがい期最大不足水量		かんがい期総不足水量		(t)		
				平 均 (m ³ /s)	基準年 (m ³ /s)	平 均 (千m ³)	基準年 (千m ³)	作物名	減産量	
			該 当 な し							
	計									
	合 計									

(1) その他の被害状況

(第5表-3-2)

事業名	時期別	かんがい 面積 (ha)	水温($^{\circ}\text{C}$)		水 質	被 害 量 (t)	備 考
			最高	最低			
			該 当 な し				

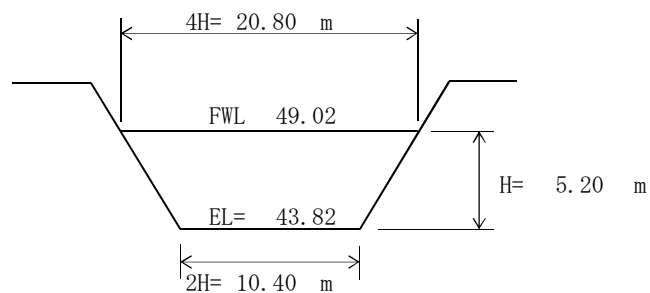
(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

(第5表-3-3)

事業名	想定被害面積(ha)				想定被害額(千円)						人命 (人)	備考
	田	畑	その他	計	作物	農地	農業用施設	公共施設	家屋その他	計		
農業用ため池整備事業	6.5	4.0	13.6	24.1	2,561	23,826	426,886	152,332	1,272,316	1,877,921	266	
計	6.5	4.0	13.6	24.1	2,561	23,826	426,886	152,332	1,272,316	1,877,921	266	

(5) 原因究明

本ため池は、下流法面から漏水が見られ、洪水吐は断面不足で洪水量を流下できず非常に危険である。
更に斜樋が老朽化しており、水量調節及び維持管理に支障がでている。よって、ため池決壊における被害を未然に防止するため、早急な改修工事が望まれる。



$$Q1 = q_1 + q_2$$

$$\text{但し } q_1 = 4.5 \cdot H^{5/2} = 4.5 \times 5.20^{5/2} = 277.5 \text{ (m}^3/\text{S)}$$

$$q_2 = 25.46 \text{ (m}^3/\text{S)} \quad \text{洪水吐設計洪水量}$$

$$\text{よって } Q1 = 277.5 + 25.46 = 302.96 \text{ (m}^3/\text{S)}$$

$$\text{総土石流出量 } V = 303 \text{ m}^3$$

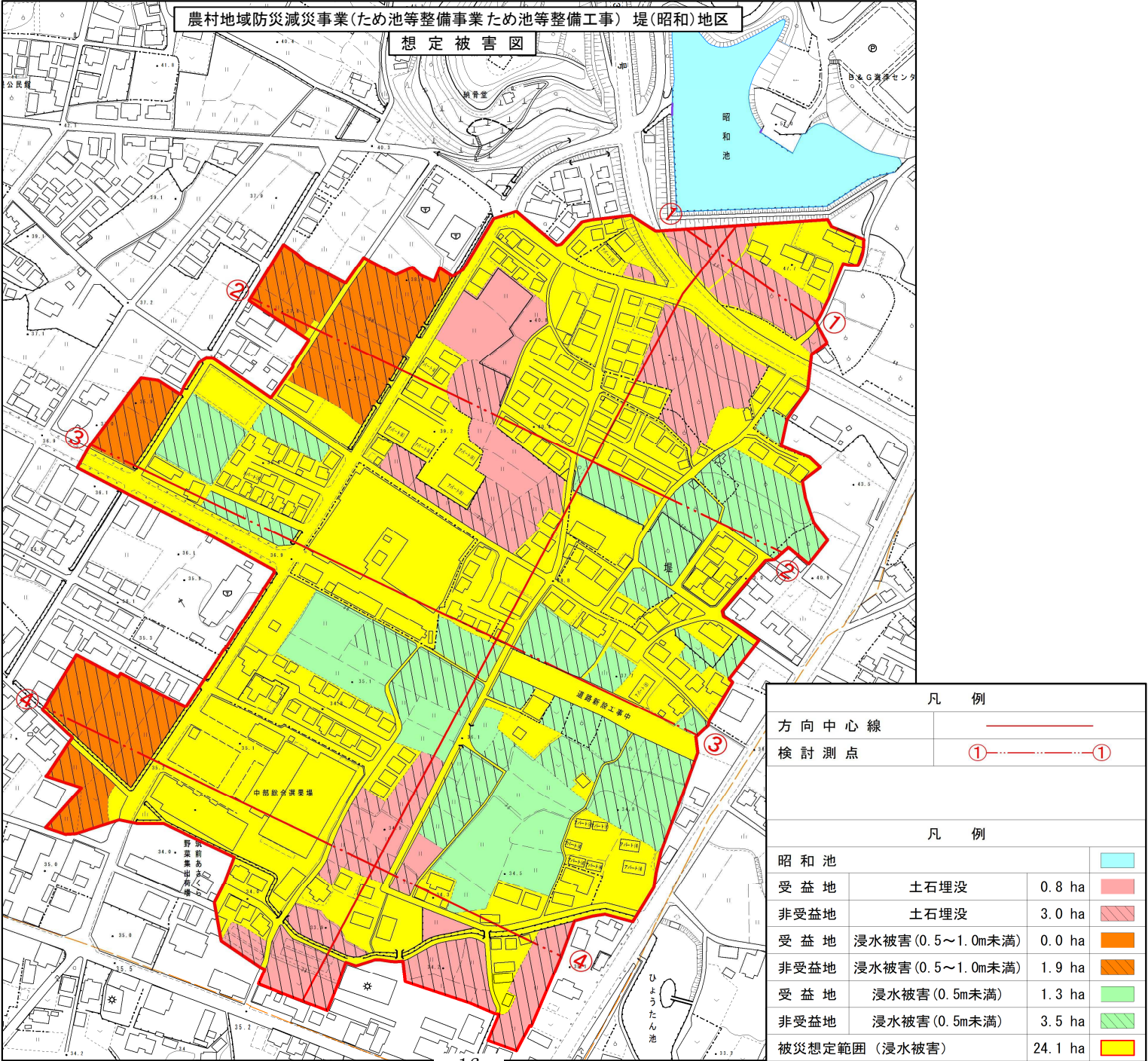
(2) 被害予想算出基礎一覧表

						小 規 模		
局 名	九 州 農 政 局		た め 池 水 防 体 制 の 経 緯			現 在 ま で の 災 害 の 経 緯		
県 名	福 岡 県					そ の 他 特 記 事 項		
地 区 名	堤(昭和) 地 区							
農 業 想 定 被 害	種 目 区 分		数 量	単 価	想定被害額	算 出 基 礎		備 考
	農 地	耕土流出	田	ha	千円	千円	0	
			畑, 樹	ha		0		
		土砂埋没	田	2.0 ha	6,270	12,540		
			畑, 樹	1.8 ha	6,270	11,286		
	農 業 用 施 設	農 道	半 壊	964 m	11.8	11,345	半 壊 964 m × 11.8 千円 / m = 11,345 千円	
		農 道	全 壊	0 m	0.0	0	全 壊 0 m × 千円 / m = 0 千円	
		用排水路	半 壊	4,854 m	46.7	226,668	半 壊 4,854 m × 46.7 千円 / m = 226,668 千円	
		用排水路	全 壊	0 m	58.8	0	全 壊 0 m × 58.8 千円 / m = 0 千円	
		揚水機場	半 壊	ヶ所		0	半 壊 0 ヶ所 × 千円 / m = 0 千円	
		ゲ ー ト	全 壊	ヶ所		0	全 壊 0 ヶ所 × 千円 / m = 0 千円	
		ゲ ー ト	半 壊	ヶ所		0	半 壊 0 ヶ所 × 千円 / m = 0 千円	
		園 芸 施 設						
	農 作 物	かんばつ(水田)	ha	0.0	0	作物名: 水 稻 0.0 ha × 千円 / ha = 0 千円		
		かんばつ(畑)	ha	0.0	0	作物名: 0.0 ha × 千円 / ha = 0 千円		
		かんばつ(樹園)	ha	0.0	0	作物名: 0.0 ha × 千円 / ha = 0 千円		
		全 減(水田)	2.0 ha	811.0	1,622	作物名: 水 稻 2.0 ha × 811.0 千円 / ha = 1,622 千円		
		全 減(畑)	0.5 ha	52.0	26	作物名: 0.5 ha × 52.0 千円 / ha = 26 千円		
		全 減(樹園)	1.3 ha	52.0	68	作物名: 1.3 ha × 52.0 千円 / ha = 68 千円		
		浸水(0.5m未満)	4.8 ha	算出基礎 参照	487	水田 2.7 ha × 171.0 千円 / ha = 462 千円 畑 1.0 ha × 12.0 千円 / ha = 12 千円 樹園地 1.1 ha × 12.0 千円 / ha = 13 千円		
		浸水(0.5~0.99m)	1.9 ha	算出基礎 参照	358	水田 1.8 ha × 198.0 千円 / ha = 356 千円 畑 0.1 ha × 16.0 千円 / ha = 2 千円 樹園地 0.0 ha × 16.0 千円 / ha = 0 千円		
		浸水(1.0m以上)	0.0 ha	0	0	水田 ha × 千円 / ha = 0 千円 畑 ha × 千円 / ha = 0 千円 樹園地 ha × 千円 / ha = 0 千円		
	農 業 用 納 屋	床 上 0.5 m 未 満	9 戸	9,089	81,801	建 物 償却資産 在庫資産 (36,203 × 0.235) + (3,166 × 0.113) + (999 × 0.223) = 9,089 千円		
		床 上 0.5m~0.99m 未 満	8 戸	13,384	107,072	建 物 償却資産 在庫資産 (36,203 × 0.325) + (3,166 × 0.327) + (999 × 0.584) = 13,384 千円		
		床 上 1.0m~1.99m 未 満	0 戸	6,543	0	建 物 償却資産 在庫資産 (10,193 × 0.499) + (2,265 × 0.483) + (588 × 0.618) = 6,543 千円		
	小 計				453,273	- 14 -		

(2) 被害予想算出基礎一覧表 続き

一般想定被害	種 目 区 分		数 量	単 価	想定被害額	算 出 基 礎			備 考
	人	床 下 浸 水	152 戸	千円 2,369	千円 360,088	(資 産) 建 物+家庭用品 (25,455 × 0.064) + (9,537 × 0.037) = 1,982 千円/戸 (応急対策費) 清掃労働+代替活動 (239) + (148) = 387 千円/戸			
			床上 0.5 m 未 満	79 戸	千円 9,410	千円 743,390	(資 産) 建 物+家庭用品 (25,455 × 0.235) + (9,537 × 0.308) = 8,919 千円/戸 (応急対策費) 清掃労働+代替活動 (239) + (252) = 491 千円/戸		
		床上0.5m～0.99m未 満	0 戸	千円 14,224	千円 0	(資 産) 建 物+家庭用品 (25,455 × 0.325) + (9,537 × 0.533) = 13,356 千円/戸 (応急対策費) 清掃労働+代替活動 (476) + (392) = 868 千円/戸			
	事 務 所	床 下 浸 水	12 戸	千円 6,578	千円 78,936	建 物 償却資産 在庫資産 (42,967 × 0.064) + (11,415 × 0.064) + (843 × 0.053) = 3,526 千円/戸 (応急対策費) 営業停止+代替活動 (2,472) + (580) = 3,052 千円/戸			
			床 上 0.5 m 未 満	1 戸	千円 18,502	千円 18,502	建 物 償却資産 在庫資産 (42,967 × 0.235) + (11,415 × 0.296) + (843 × 0.282) = 13,714 千円/戸 (応急対策費) 営業停止+代替活動 (4,208) + (580) = 4,788 千円/戸		
	自 動 車	地盤面から30cm未満	0 世帯	0	0	家庭用品(自動車) 3,565 × 0.0 = 0 千円/世帯			
		地盤面から30～49cm	200 世帯	357	71,400	家庭用品(自動車) 3,565 × 0.1 = 357 千円/世帯			
		地盤面から50～69cm	0 世帯	1,783	0	家庭用品(自動車) 3,565 × 0.5 = 1,783 千円/世帯			
		地盤面から70cm以上	0 世帯	3,565	0	家庭用品(自動車) 3,565 × 1.0 = 3,565 千円/世帯			
小 計					1,272,316				
公 共 想 定 被 害	国 道	0 m	0.0	0	全 壊 0.0 m × 千円 / m = 0 千円				
		180 m	88	15,840	半 壊 180.0 m × 88 千円 / m = 15,840 千円				
	市 町 村 道	0 m	0.0	0	全 壊 0.0 m × 千円 / m = 0 千円				
		4,022 m	33.9	136,492	半 壊 4,022.0 m × 33.9 千円 / m = 136,492 千円				
	鉄 道	— m			全 壊 m × 千円 / m = 千円				
		— m			半 壊 m × 千円 / m = 千円				
	河 川	— m			全 壊 m × (0 千円 / m × 1/2) = 0 千円				
— m				半 壊 m × 千円 / m = 0 千円					
小 計					152,332				
人 命 想 定 被 害			全 壊 家 屋 住 人		0 人	2.3人/戸×0戸=0人			
			半 壊 家 屋 住 人		266 人	2.3人/戸×231戸×1/2=266人			
合 計					1,877,921				

(3) 被害予想図



2. 排水状況

(1) 排水系統

該当なし

(2) 排水施設

(ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項 目		排 水 面 積						計		排 水 慣 行 (m³/s)	現況排水能力 (m³/s)	備 考
			500ha以上		100～500ha		100ha未満						
	施 設 名		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
	自然	排 水 路											
		水 門											
	機械	排 水 機											
		水門及び排水機											
		排水路及び排水機											
	計												
	自然	排 水 路											
		水 門											
	機械	排 水 機											
		水門及び排水機											
		排水路及び排水機											
	計												
合 計													

(イ) 改修を要する施設の一覧表

(第5表-5)

事業名	項 目		施設名 又は 箇所数	構 造	規 模	新 設 又 更 新	改 修 を 必 要 と す る 理 由	備 考
	施 設 名							
	自然	排 水 路						
		水 門						
	機械	排 水 機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
	計							
	自然	排 水 路						
		水 門						
	機械	排 水 機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
	計							
	自然	排 水 路						
		水 門						
	機械	排 水 機						
		水門及び排水機						
		排水路及び排水機						
	計							
合 計								

(3) 排水に関する被害状況

(第5表－6)

事業名	項目 系統名	排水面積 (ha)	降水量 (mm)		湛 水 状 況				乾 湿 状 況 (ha)						平 均 減 産 量 (t)		備 考
					湛 水 深 (cm)	湛 水 時 間 (hr)	湛 水 面 積 (ha)	湛 水 量 (千m ³)	田		畑		その他				
									乾	湿	乾	湿	乾	湿			
															作 物 名	減 産 量	
			平均														
			基準年			該 当 な し											
	計		平均														
			基準年														
合 計			平均														
			基準年														

3. 河 川 状 況

(1) 河川状況

(第5表－7)

項 目 河川名	流 路 状 況	勾 配	断 面	安全洪水量 (m^3/s)	既往最大洪水量 (m^3/s)	備 考
		該 当 な し				

(2) 洪水に関する被害状況

(第5表－8)

項 目 区 分	農 用 地 (百万円)	農 用 施 設 (百万円)	作 物 (百万円)	公 共 施 設 (百万円)	備 考
過去の最大被害額		該 当 な し			
平 均 被 害 額					

第4節 道 路 現 況

1. 道 路 概 況

該 当 な し

2. 主要道路一覧表

(第6表)

	路 線 名	管 理 区分別	延 長 (m)	幅 員 (m)		構 造	改修の要否	備 考
				全 幅	有 効			

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(第7表-1)

項目 市町村名	総 数 (人)	農 業 (人)	林 業 (人)	漁 業 (人)	鉱 業 (人)	建 設 業 (人)	製 造 業 (人)	電気ガス熱 供給水道業 (人)	運輸通信業 (人)	御売小売業飲食店 (人)	金融保険業 (人)	不動産業 (人)	サービス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備 考
朝倉市	24,108	3,032	63	8	14	1,862	3,793	63	1,468	3,451	294	270	7,931	686	1,173	令和2年 国勢調査
計	24,108	3,032	63	8	14	1,862	3,793	63	1,468	3,451	294	270	7,931	686	1,173	
比率 (%)	100.0%	12.6%	0.0%	0.0%	0.1%	7.7%	15.7%	0.3%	6.1%	14.3%	1.2%	1.1%	32.9%	2.8%	4.9%	

2. 経営耕地広狭別農家数及び耕地の分散状況並びに専兼業別農家数

(第7表-2)

区分 市町村名	農家総戸数 (戸)	経営耕地広狭別農家数（戸）											1戸当たり平均農用地面積（h a）						耕地の分散状況		専兼業別農家数（戸）			備考
		例外規定の適用を受けるもの	0.3	0.5	1.0	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	20.0	自給的農家	田	畑	樹園地	小計	草地	計	1戸当たり数	団地当たり面積（a）	専業	兼業		
			～0.5	～1.0	～1.5	～2.0	～3.0	～5.0	～10.0	～20.0以上	第一種											第二種		
朝倉市	2,222	113	208	467	297	172	168	95	53	30	19	698	2.27	0.49	0.86	2.16	1.63	2.16	－	－	－	－	－	農林業センサス 2020年現在
計	2,222	113	208	467	297	172	168	137	53	30	19	698	2.27	0.49	0.86	2.16	1.63	2.16	－	－	－	－	－	
比率(%)	100.0%	5.1%	9.4%	21.0%	13.4%	7.7%	7.6%	4.3%	2.4%	1.4%	0.9%	31.4%							－	－	－	－	－	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(第7表-3)

項 目 市町村名	動 力 農 機 具						主 要 家 畜						備 考
	動力田植機		トラクター		コンバイン		乳用牛		肉用牛		採卵鶏		
	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (台)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	数量 (頭)	戸数 (戸)	
朝倉市	—	—	—	—	—	—	1,479	24	×	16	5,142	6	農林業センサス 2020年現在
計	—	—	—	—	—	—	1,479	24	—	16	5,142	6	
100戸当たり数量 (台, 頭)							6,163		—		85,700		
利用戸数割合 (%)	—		—		—								

4. 主要作物作付状況

(第7表-4)

市 町 村 名			朝倉市						計	平 均	作 付 率	備 考
総耕地面積 (ha)			4,790						4,790			
総本地面積 (ha)			4,650						4,650			
区 分 作 付 名			作付面積 (h a)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (h a)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (h a)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (h a)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	(%)	
田・畑	表 作	水 稻	1,740	478					1,740	478	36.3%	第71次福岡県 農林水産統計 年報による
		豆 類	485	222					485	222	10.1%	
	裏作	麦 類	1,496	453					1,496	453	31.2%	
樹園地												
計			3,721						3,721		77.7%	
市町村別延べ作付率(%)			77.7%						77.7%			

5. 農業の動向

(第7表-5)

項目 区分	農 家			土 地			主 要 作 物			大 家 畜			動 力 農 機 具			地 域 指 定 等	備 考
		B	A (現在)		B	A (現在)	作 物 名	B	A (現在)	家 畜 名	B	A (現在)	農機具名	B	A (現在)		
変化の 状 況 (C年を 100と する 指 数)	総 農 家 数	71	59	総 面 積	91	90	水 稻	92	84	乳 用 牛	66	69	動力田植機	61	-		
	専業農家数	89	-	田	92	93	麦 類	100	102	肉 用 牛	-	-	トラクター	68	-		
	第 一 種 兼業農家数	69	-	畑	89	92	豆 類	125	114	採 卵 鶏	4	133	コンバイン	60	-		
	第 二 種 兼業農家数	61	-														
	農 業 従 事 者 数	89	75														
変化する理由	農産物価格の低迷により、農家戸数の減少が進んでいる。			農業後継者や担い手が減少して、耕作放棄地が増加しているが、認定農業者や集落営農組織に農地の利用集積を推進している。			農産物の生産性や効率性の向上を図るため担い手への農地の利用集積や土地改良施設の改修改良を進め地産地消を推進し販路を拡大する。			後継者や担い手が減少及び安価な輸入製品の影響により家畜農家は減少傾向にある。			労働力不足のため、中核的農家、営農集団などへの作業委託が増えている。			農林業 センサス 2020 2015 2010	A： 20年度 B： 15年度 C： 10年度

第6節 地域環境の概況

1. 植物・動物等生態系の概要

【文献調査】参考：朝倉市農村環境計画、福岡県RDB(2011,2014)

植 物：ツゲ林など植生7件。サクラソウ、ズミ、ホソバママコナなど植物26種類。

哺乳類：カヤネズミ、スミスネズミ、ニホンザルなど6種類。

鳥 類：クマタカ、ブッポウソウ、アオバズクなど13種類。

両生類：トノサマガエル、ヤマアカガエル、アカハライモリの3種類。

鱗翅目：オオウラギンヒョウモン、シルビアチジミ、オオムラサキなど16種類。

【現地調査】希少種 該当なし

植 物：アザミ、ギンギン、ヒシ、ヨモギなど

魚 類：ヨシノボリ、フナ、コイなど

甲殻類：スジエビ

昆虫類：ハラビロトンボ、トノサマバッタ、ベニシジミ、ラミーカミキリなど

【希少種分布状況】参考：福岡県希少野生生物分布情報 (<http://www.fihes.pref.fukuoka.jp/~kankyouseibutsu/gis/gis.html> 2017.5.29更新)

希少植物確認種数 2種

希少生物確認種数 8種

2. 土地利用状況の概要

朝倉市は、福岡県のほぼ中央部、福岡市の南東約30km、久留米市の北東約20kmに位置し、総面積24,671haを有している。この広大な市域の約55%が森林で最も多く、気候は年平均気温15.9度であり、年間降雨量1,931mmで、全般的に温暖である。

地形的には、山間・山麓、中山間、平坦地等に大別でき、市内を西から南東へと向かう国道386号の南側は平野部であり、北部から東部にかけては、800～900m級の山々が連なっている。

市域西端部には、商工業を中心とした市街地を形成しており、また、市域南部は境界にほぼ沿うかたちで筑後川が流れ、河川沿いを中心に肥沃かつ平坦な農地を形成している。そこでは、博多万能ねぎをはじめとする農産物の生産が行われ、その東には山間丘陵地が広がり、ここでは果樹の生産が行われ、農産品の生産と観光・交流の場として、貴重な地域資源となっている。

交通は、福岡方面と日田方面を結ぶ国道386号線が東西に走り、主要幹線道路となっており、市の南北を貫く国道322号、500号などの幹線道路と、県道・市道が各地域を結んでいる。また、市域の中心部を東西に大分自動車道が走り、甘木、朝倉、杷木の3つのインターチェンジが整備されているほか、甘木駅を起点とする2つの鉄道と、国道・幹線道路をはじめとする道路網により周辺都市との連携が図られている。

※参考文献：朝倉市農村振興地域整備計画書（平成27年11月）

第4章 一 般 計 画
第1節 事業計画の要旨

1. 要 旨

項 目	事 業 を 必 要 と す る 理 由	改 修 ・ 補 強 工 法
堤 体	① 堤体断面 : 上流側斜面浸食 ② 堤体の余裕高 : 0.01m不足 ③ 堤頂幅 : 0.1m不足 ④ 堤体等からの漏水 : 63.6 ℓ/100m > 60.0 ℓ/100m 以上から、堤体の強度は低下していると判断されるため、早急な改修を必要とする。	堤体改修工法 : 前刃金工法（傾斜遮水ゾーン型） 堤高H=7.3m、堤長L=278.6m、堤頂幅W=3.5m 法面保護工 : 波受工（ブロックマット）、張芝工 腰石積工 : 積ブロック
取 水 施 設	○ 取水施設の機能低下 老朽化しており、斜樋付近の堤体も浸食されている。 ○ 緊急放流施設の未整備 整備されておらず、緊急放流に対応できない。	底樋 : プレキャスト底樋管 φ900、延長L=24.2m 斜樋 : VP管 φ250 取水孔 φ150×3 延長L=12.1m （スルースゲート） 緊急放流施設 : 塩ビ管 φ350 放流孔 φ350×1 （スルースゲート）
洪 水 吐	○ 洪水吐の断面不足 計画洪水量 25.46m ³ /s > 現況能力 3.52m ² /s	洪水吐 : 側水路型（鉄筋コンクリート三面張り） 堰幅B=16.7m 延長L=55.8m（放流水路含む）
その他被災歴・改修歴 ・溜池依存の状況等 特記事項	【防災重点農業用ため池】・・・該当 【重要度区分】・・・重要度A 【特定農業用ため池】・・・非該当 【被災歴・改修歴】・・・取水施設：S22.10	

2. 事業別面積

（第8表）

事業名 土地 利用 区分 事業目的	農業用ため池整備事業																		計	備 考
	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)	水 田 (ha)	普 通 畑 (ha)	牧 草 畑 (ha)	果 樹 園 (ha)	そ の 他 (ha)	小 計 (ha)		
老朽ため池改修	2.1					2.1													2.1	
計	2.1	—	—	—	—	2.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.1	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

本事業により、昭和池の貯水機能を回復し、下流農地及び農業用施設の災害防止及び水供給の安定化により干害被害を防止する。

2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用 区分	水 田	普通畑	牧草畑	果樹園	茶 園	その他	小 計	原 野	山 林	その他	計	備考
	区分	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
農業用ため池整備事業	現 況	2.1	-	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.1	
	計 画	2.1	-	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.1	
	現 況												
	計 画												
	現 況												
	計 画												
計	現 況	2.1	-	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.1	
	計 画	2.1	-	-	-	-	-	2.1	-	-	-	2.1	

3. 作 付 方 式

(第9表-2)

事業名	項目	経営類型	土地利用区分	1 年 目												2 年 目												備 考
				1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	
	現 況	田 (表)																									○△× 播 移 収 種 植 穫	
		畑																										
	計 画	田 (表)																										
		畑																										

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目		作付面積 (ha)			作付率		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量 増減の内訳(t)		備考
	土地利用 区分	作物名	現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積 増減	単位面積 当たり 収量増加	
	水田															
	普通畑															
	計															
	合計															

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目		作物名	作物面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量 (hr/ha)				備考
	土地利用 区 分				区 分	現 況	計 画	増 減	
	輪 換 耕 地	表 作							
		裏 作							
		計							
	普 通 畑	表 作							
		裏 作							
計									
合 計									

6. 級地別土地利用区分

(第9表-5)

区分 級地名 土地利用区分		農用地造成 (ha)					干 拓 (ha)					合 計
		一級地	二級地	三級地	四級地	計	一級地	二級地	三級地	四級地	計	
農 地	田											
	輪換耕地											
	畑											
	(普通畑)											
	(牧草畑)											
	樹園地											
	(果樹園)											
	(桑 園)											
そ の 他												
計												

7. 土地配分計画

(第9表-6)

区分	項目	配分戸数 (戸)	地 目 別 配 分 計 画 (ha)							備 考	
			田	輪換耕地	畑						計
					普通畑	牧草畑	樹園地				
増 反			()	()	()	()	()	()	()		
入 植			()	()	()	()	()	()	()		

第3節 用 水 計 画

1. 計画基準年

-

2. 計画かんがい方式

スルースゲートの開閉による自然流下かんがいを行う。

3. 計画用水系統

昭和池 → 受益地 受益面積 2.1 ha
(別紙計画用水模式図参照P. 35)

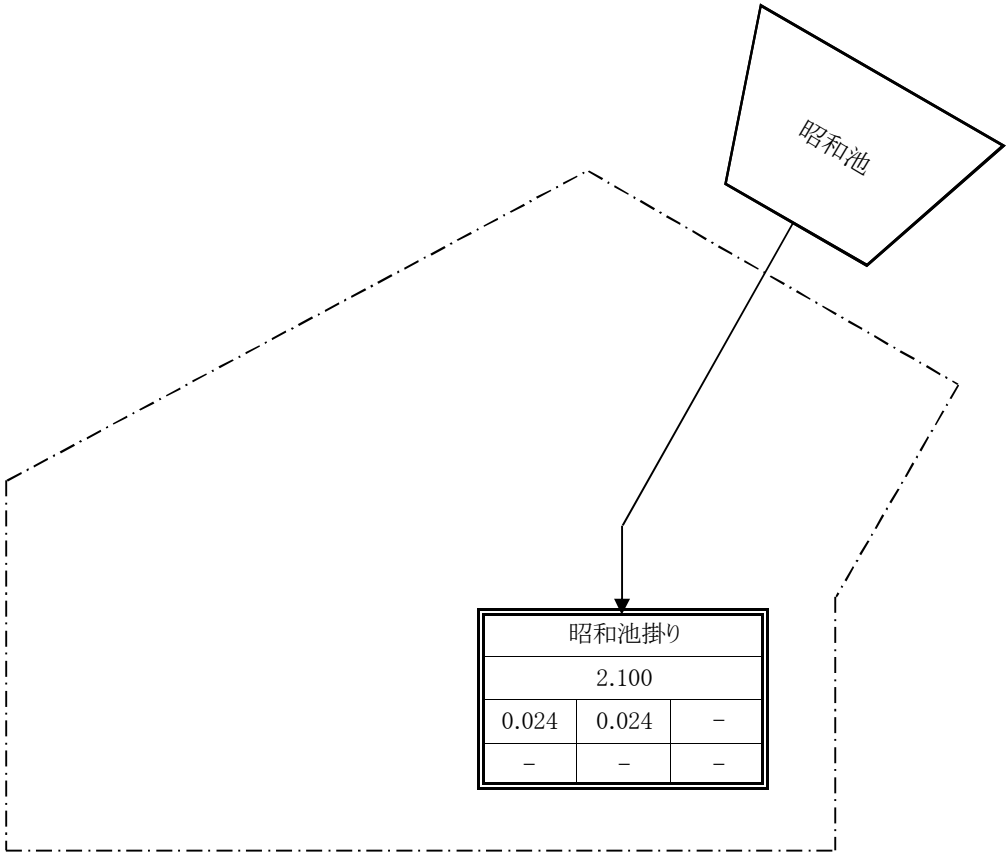
4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

系 統 図	項 目	種 別	面 積(ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			そ の 他		消 費 水 量 (m³/s)	損 失 率 (%)	粗用水量		備 考
			事 業 名		普 通 期	代 掻 期	面 積 (ha)	一 日 平 均 かん水深 あたり計画 (mm/日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	一 日 平 均 かん水深 あたり計画 (mm/日)	平 均 間 断 日 数 (日)	面 積 (ha)	単 位 用 水 量 計画平均 (mm/日)	面 積 (ha)			平 均 均 大 (m³/s)	最 大 (m³/s)	
			農 業 用 ため 池 整 備 事 業		計 画 平 均 (mm/日)	計 画 単 位 用 水 量 代 掻 (mm/日)														
	昭和池掛り		2.1		150.0	2.1									0.013	15		0.024		

計 画 用 水 系 統 図



昭和池掛り		
2.100		
0.024	0.024	-
-	-	-

凡 例													
記 号	名 称												
	既 設 水 路												
	頭 首 工												
	貯 水 池												
<table border="1" data-bbox="1744 679 1890 774"><tr><td colspan="3">(イ)</td></tr><tr><td colspan="3">(ロ)</td></tr><tr><td>(ハ)</td><td>(ニ)</td><td>(ト)</td></tr><tr><td>(ホ)</td><td>(ヘ)</td><td>(ト)</td></tr></table>	(イ)			(ロ)			(ハ)	(ニ)	(ト)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 外
(イ)													
(ロ)													
(ハ)	(ニ)	(ト)											
(ホ)	(ヘ)	(ト)											
<table border="2" data-bbox="1742 809 1892 901"><tr><td colspan="3">(イ)</td></tr><tr><td colspan="3">(ロ)</td></tr><tr><td>(ハ)</td><td>(ニ)</td><td>(ト)</td></tr><tr><td>(ホ)</td><td>(ヘ)</td><td>(ト)</td></tr></table>	(イ)			(ロ)			(ハ)	(ニ)	(ト)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	地 区 内
(イ)													
(ロ)													
(ハ)	(ニ)	(ト)											
(ホ)	(ヘ)	(ト)											
(イ)	路 線 名												
(ロ)	灌 漑 面 積												
(ハ)	代 掻 期 粗 用 水 量												
(ニ)	代 掻 期 利 用 可 能 量												
(ホ)	普 通 期 粗 用 水 量												
(ヘ)	普 通 期 利 用 可 能 量												
(ト)	不 足 水 量												

(2) 営農飲雑用水

(第10表-1-2)

区 分	利用区分	対象面積 (ha)			日 当 給 水 量		補給回数 (回)	関係戸数 (戸)	備 考
		事 業 名		計	単位給水量 (1/s)	最大給水量 (1/s)			

5. 水源計画

(1) 水利用計画

(第10表-2)

[illegible]

(2) 用水対策

(7) 貯水池

(第10表-3)

貯水池名 項目	流域面積(k㎡)		かんがい面積 (ha)			純貯水量 (千m³)	利用貯水量 (千m³)	利用回数 (回)	最大取水量 (m³/s)	備考 備
			事業名		計					
	直接	間接	農業用ため池整備事業							
昭和池	0.648	-	2.1	-	2.1	41.9	41.9	-	0.024	

(イ) 井堰及び自然取入口

(第 10 表-4)

項 目	河川名	流域面積 (km ²)	かんがい面積 (ha)		計	取 水 量 (m ³ /s)		備 考
			事 業 名			最 大	平 均	
取水施設名								
計								

(第10表-5)

[illegible]

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積 (ha)			最大通水量 (m ³ /s)	延長 (m)	構造	備考
	事業名		計				

(オ) その他の水源施設

該 当 な し

(3) 水 温 水 質

該 当 な し

第4節 排 水 計 画

1. 計画基準雨量

該 当 な し

2. 計画排水方式

該 当 な し

3. 計画排水系統

該 当 な し

4. 計 画 排 水 量

(第 1 1 表－ 1)

項 目 排水系統名	受 益 面 積 (ha)		計	流域面積		基 準 雨 量 (mm)	降雨による 直接単位 流 出 量 (m³/s/km²)		基底流出量		全排水量(m³/s)			単位排水量		備 考
	事 業 名			(km²)			(m³/s/km²)		(m³/s/km²)		山 地	平 地		(m³/s/km²)		
				山 地	平 地		山 地	平 地	山 地	平 地		山 地	平 地	山 地	平 地	

5. 排 水 対 策

(1) 排 水 水 門

(第 1 1 表－ 2)

項 目 名 称	流域面積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計 画		排 水 本 川			備 考
		事 業 名		計	排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	名 称	計 画 洪水量 (m ³ /s)	計 画 洪水位 (m)	
計										

(2) 排 水 機

(第 1 1 表－ 3)

項 目 名 称	流域面積 (km ²)	受 益 面 積 (ha)			計画排水量		排 水 機				備 考
		事 業 名		計	排水量 (m ³ /s)	地区内 たん水深 (m)	実揚程 (m)	排水量 (m ³ /s)	台 数 (台)	全排水量 (m ³ /s)	
計											

(イ) その他

該当なし

6. 湛水検討

	湛水状況			許容湛水深以上		排水系統	備考
	面積	最大湛水深	最大湛水時間	面積	時間		
現況	ha	cm		ha			
計画							

第5節 道 路 計 画

1. 道路及び索道

(1) 道 路

(第12表-1)

項 目 路 線 名	幅 (有効) × 延長 (m) (km)	構 造	既設道路との関係	備 考
計				

(2) 索 道

(第 1 2 表－ 2)

項 目 路 線 名	能 力 (t/hr)	延 長 (m)	接 続 道 路 名	備 考

2. 路 線 配 置 図

該 当 な し

第6節 農用地造成計画

1. 農用地造成計画

(1) 農用地造成計画

(第13表-1)

項 目 土地利用区分	主 要 作 目	自 然 傾 斜	耕 地 の 形 態	標準区画の形状	備 考

(2) 末端道水路配置図

2. 土 壌 改 良

(第13表-2)

項 目 区 分	面 積 (ha)	土 壌 統(区)名	pH		置換酸度 (Y ₁)	りん酸 吸収係数 (mg/100g)	ha当たり所要量			備 考
			H ₂ O	KCI			石 灰 (t)	りん酸質 資 材 (t)	有機質 資 材 (t)	

第7節 洪水調節計画

1. 計画基準雨量

該当なし

2. 計画洪水量及び調節量（略）

（第14表-1）

地 点	流域面積 (km ²)	洪 水 到達時間 (h r)	計画洪水量 (m ³ /s)	安全洪水量 (m ³ /s)	必要調節量 (m ³ /s)	ピーク時 調 節 量 (m ³ /s)	ピーク時 調節後流量 (m ³ /s)	調節後 最大流量 (m ³ /s)	調節前後の 最 大 流量の差 (m ³ /s)	最 大 調節量 (m ³ /s)

3. 貯 水 池

（第14表-2）

項 目 貯水池名	流 域 面 積 (km ²)		計画洪水量 (m ³ /s)	貯 水 量 (千m ³)			計画調節 流 量 (m ³ /s)	可能調節 流 量 (m ³ /s)	備 考
	直 接	間 接		有 効	洪水調節容量	他 目 的			

4. 洪水調節検討

(1) 河川改修計画との関係

該 当 な し

(2) 洪水調節が下流に及ぼす影響

該 当 な し

(3) 計画基準雨量以外の降雨についての検討

該 当 な し

5. 管 理 計 画

(1) 管 理 機 構

該 当 な し

(2) ダム管理操作上の各種基準

該 当 な し

(3) 洪水調節要領

該 当 な し

第8節 干 拓 計 画

(第15表)

項 目 名 称	延 長 (m)	計画高潮(水)位 (T. P. m)	風向及び対岸距離 (km)	風 速 (m/ s)	気 圧 (m b)	備 考

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備 考
計					

(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備 考

(3) 末端道水路配置図

該 当 な し

2. 暗 渠 排 水

(1) 暗 渠 排 水

(第16表-3-1)

項目 区分	面積 (ha)		土 壤 統(区) 名	基準雨量 (mm/日)	単位排水量 ($\frac{\text{リットル}}{\text{s}}/\text{ha}$)	計画後の 地下水位 (m)	集 水 渠 出 口 以 下 の 排 水 方 法	備 考
	事 業 名							
		計						
計								

(2) 心 土 破 碎

(第16表-3-2)

項目 区分	面積 (ha)		計	土壌統(区)名	土 壌 硬 度	備 考
	事 業 名					
計						

3. 客 土

(第16表-4)

項目 区分	面 積 (ha)		土壌統 (区)名	減水深 (mm/日)		作土の厚さ (cm)		10a当たり 客土量 (m³)	土 壌 の 性 質		備 考
	事 業 名	計		現況平均	計画平均	現況平均	計画平均		受益地 (%)	採土地 (客土材料) (%)	
計											

4. 農地保全

(1) 防災林

(第16表-5-1)

項目 区分	最 大 風 速 (m/s)	幅 (m)	間 隔 (m)	備 考

(2) 排水工

(第16表-5-2)

項目 名称	基 準 雨 量 (mm/日)	土 性	流 出 率	排 水 量		備 考
				単位排水量 ($m^3/s/ha$)	全排水量 (m^3/s)	

(3) 浸食（崩壊）防止工

(第16表-5-3)

施設名	項目	位置	支配面積 (ha)	機能	備考

第10節 老朽のため池改修計画

1. 洪水吐改修計画

(1) 計画基準雨量

計画降雨	観測機関名 計画基準雨量 計画根拠	朝倉観測所（1976年～2023年） 日田観測所（1946年～2023年） 到達時間を含む比較により、既往最大雨量を使用する。 (1) 200年確率雨量（A項流量） $\gamma t = 104.5 \text{ mm/hr}$ $\gamma 10 = 31.7 \text{ mm/hr}$ (2) 既往最大時間雨量（C項流量） $\gamma t = 129.5 \text{ mm/hr}$ $\gamma 10 = 39.7 \text{ mm/hr}$ 洪水到達時間41.3分より有効降雨強度 $\gamma t = 149.2 \text{ mm/hr}$ となる。
------	-------------------------	---

(2) 計画洪水量

集水面積	直接	64.8 ha	合計
	間接	- ha	64.80 ha
計画洪水量	計算式 流出率 計画洪水量	$Q = 1/3.6 \cdot f \cdot \gamma t \cdot A \cdot 1.2$ 0.79 （総合流出） $Q = 1/3.6 \times 0.79 \times 149.2 \times 0.6480 \times 1.2 = 25.46 \text{ m}^3/\text{s}$	

2. 堤体補強計画

- (7) 法面保護工 堤体上流法面は、ブロックマットによる波受工を施工する。
 (4) 漏水防止 堤体は前刃金工法で施工する。

3. 取水施設改修計画

斜樋は、塩ビ管φ250に改修する。取水孔はφ150とし、スルースゲートを設置する。
 底樋は、プレキャスト底樋管φ900に改修する。土砂吐にはゲート800×800を設置する。
 緊急放流施設は、塩ビ管φ350で改修する。緊急放流孔はφ350とし、スルースゲートを設置する。

第5章 主要工事計画
第1節 用水施設

1. 貯水池

(第17表-1)

名 称				位 置	堤 長 (m)	堤 体 積 (千m ³)	基礎地盤 地 質	貯 水 量 (千m ³)		備 考
堤 体	型 式	流 域 面 積 (k m ²)		堤 高 (m)				總貯水量	有効貯水量	
		直 接	間 接							
洪水吐	型 式	洪水量 (m ³ /s)		取水施設	型 式	取水量 (m ³ /s)	放流施設	型 式	放流量 (m ³ /s)	

2. 頭首工

(第17表-2)

名 称				位 置				備 考
型 式	堤 高 (m)	堤 長 (m)			取 水 位 (m)	取 水 量 (m ³ /s)	付帯施設	
		固 定 部	可 動 部	計				
計								

3. 揚水機

(第17表-3)

項目 名称	位置	揚水量 (m^3/s)	揚程 (m)		揚水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 (KW)	台数 (台)	

4. 用水路

(第17表-4)

水路名	項目	かんがい 面積 (ha)		通 水 量 (m^3/s)	延 長 (km)			構 造	勾 配	主要構造物	備 考
		事 業 名	計		開きよ トンネル その他 計						
	計										

5. その他かんがい施設

該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門

(第18表-1)

項目 名称	位置	型式	構造	内水位 (m)	外水位 (m)	排水量 (m^3/s)	備考
計							

2. 排水機

(第18表-2)

項目 名称	位置	排水量 (m^3/s)	揚程 (m)		排水機			原動機			備考
			全揚程	実揚程	型式	口径 (mm)	台数 (台)	型式	動力 ()	台数 (台)	
計											

3. 排水路

(第18表-3)

水路名	項目	受益面積 (ha)		排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
		事業名	計		開きよ	トンネル その他	計				
					</						

4. その他排水施設

該 当 な し

1. 道 路
(1) 道路の総括表

[illegible]

(2) 道路主要構造物

(第 19 表 - 2)

項 目 路線名	名 称	規 模 構 造	延 長 (m)	箇 所 数 (箇所)	備 考

2. 索 道

(第 19 表 - 3)

項 目 名 称	延 長 (m)	高 低 差 (m)	能 力 (t/h r)	原 動 機		備 考
				型 式	動 力 ()	

第4節 農用地造成

1. 農用地造成

(1) 抜根

(第20表-1)

項目 区分	樹種	樹径 (cm)	h a 当たり本数 (本/ha)	面積 (ha)	工法	備考
計						

(2) 除礫

(第20表-2)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	h a 当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面積 (ha)	工法	備考
計					

(3) 開墾作業

(第20表-3)

項目 区分		面積 (h a)	工法	備考
地目	造成工法			
		該当なし		
計				

(4) 地目変換

(第20表-4)

項目 区分	面積 (h a)	工法	備考
	該当なし		
計			

(5) 末端用水路等

(第20表-5)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
	該当なし			
計				

(6) 末端排水路等

(第20表-6)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
	該当なし			
計				

2. 土 壤 改 良

(第20表-7)

項 目 区 分	面 積 (h a)	石 灰 量 (t)	りん酸質資材量 (t)	有機質資材量 (t)	備 考
計					

第5節 洪水調節施設

1. 貯水池

該 当 な し

2. 頭首工及び導水路

(1) 頭首工

(第21表-2)

名 称			位 置	堤 長 (m)			計画洪水位 (m)	付帯施設	備 考
				固 定 部	可 動 部	計			
型 式	集水面積 (km ²)	堤 高 (m)							

(2) 導水路

(第21表-3)

項 目 水路名	通 水 量 (m ³ /s)	延 長 (m)			構 造	勾 配	備 考
		トンネル	その他	計			

第6節 干 拓 施 設

1. 堤 防

(第22表-1)

項目 名称	形 式	延 長 (m)	構 造				原地盤標高(m)		備 考
			堤長標高 (m)	盛土幅 (m)	盛土標高 及び舗装	上流斜面	下流斜面	平 均	

2. 潮 止 め

(第22表-2)

項目 名称	工 法	幅 員 (m)	敷高標高 (m)	潮止め堤標高 (m)	最大流速 (m/s)	床固め構造	備 考

3. 付 属 施 設

該 当 な し

4. 埋 立

(第22表-3)

項目 区分	面 積 (ha)	埋 立 標 高 (m)	埋 立 土 量 (m ³)	施 工 方 法	備 考

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工 区 名	面 積 (ha)	整 地 工		表 土 扱 い		備 考
		標 準 区 画	土 量 (m ³)	面 積 (ha)	土 量 (m ³)	

(2) 末端用水路等

(第23表-2)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

(3) 末端排水路等

(第23表-3)

項 目 区 分	数 量	規 模	構 造	備 考
計				

2. 暗 渠 排 水

(1) 暗渠排水

(第23表-4-1)

項 目 区 分	面 積 (ha)		集 水 渠				排 水 渠						集水渠出口以下 の 排 水 施 設			備 考
	事業名	計	勾配	管種	管径 (mm)	延長 (m/ha)	勾配	管種	管径 (mm)	深さ (m)	間隔 (m)	延長 (m/ha)	名称	構造	数 量 (m/ha)	
計																

(2) 心土破碎

(第23表-4-2)

項 目 区 分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m ³ /ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計					

3. 客 土

(第23表-5)

項目 区分	面積 (ha)			客入土量 (m ³)	土取場土量 (m ³)	運搬距離 (km)	運搬方法	備考
	事業名		計					
計								

4. 除 礫

(第23表-6)

項目 区分	対象土層の厚さ (cm)	ha当たり標準除礫量 (m^3/ha)	面 積 (ha)	工 法	備 考
計					

5. 農地保全

(1) 防風林

(第23表-7)

項目 区分	幅 (m)	延長 (m)	面積 (ha)	樹種	植栽本数 (本)	備考
		該当なし				
計						

(2) 排水路

(第23表-8)

項目 区分	延長 (m)	流量 (m^3/s)	構造	備考
		該当なし		
計				

(3) 侵食防止工

(第23表-9)

項目 区分	構造	数量	備考
	該当なし		
計			

第8節 老朽ため池改修施設

1. 貯水池

(第24表)

名 称	昭和池					位 置	福岡県朝倉市堤		
堤 体	区 分	形 式	流 域 (km ²)	堤 高 (m)	堤 長 (m)	堤 体 積 (m ³)	堤 体 幅 (m)	貯 水 量 (千m ³)	備 考
	現 況	均一型	0.648	7.30	250.0	28,200	3.40	41.88	
	計 画	前刃金型	0.648	7.30	278.6	33,800	3.50	34.67	
洪 水 吐	区 分	形 式	洪 水 量 (m ³ /s)	規 模 (m)	備 考	取 水 施 設	形 式	取 水 量 (m ³ /s)	備 考
	現 況	越流堰型	25.46	10.00	断面不足		斜 樋	φ250 0.024	
	計 画	側水路型	25.46	16.70			底 樋	プレキャスト底樋管 φ900	

2. 堤体補強施設

(1) のり面保護施設

堤体上流法面は、ブロックマットによる波受工を施工する。

(2) 漏水防止工

堤体は前刃金工法で施工する。

第6章 附帯工事計画

該 当 な し

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

1. 工事の着手及び完了の予定

工 期	着手予定	令和8年度	
	完了予定	令和13年度	6ヵ年

第8章 環境との調和への配慮

第1節 配慮の対象

1. 動物
希少生物8種
2. 植物
該当なし
3. その他
該当なし

第2節 配慮の考え方

1. 施工上の配慮
 - ・工事実施の際は土砂や濁水の発生を極力防止し、発生した場合でも直接下流へ流さないよう留意する。
 - ・希少生物と思しき生物が発見された場合は、一時的に保護し完了後に放流する又は類似環境へ移動させるなどの配慮を行う。
2. 施工計画上の配慮
 - ・地盤改良等に伴う高pH水の流出に対して、排水の中和やpHが上がりづらい地盤改良材の選定等の対策を行う。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

該 当 な し

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称・所在・面積

(第25表－1)

換 地 区 名	換 地 区 の 所 在	面 積 (ha)

2. 換地区を設定する理由

該 当 な し

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

(第25表－2)

換 地 区 名	地 積 の 基 準	

2. 用途別予定地積

(単位: ha)

(第25表-3)

[illegible]

3. 農用地集団化の方針

(第 25 表-4)

換地区名	区分	地帯別・グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	一戸あたりの目標団地数	区画畦畔の取り扱い

4. 非農用地換地の方法

(第25表-5)

[illegible]

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

該 当 な し

2. 清算の方法

該 当 な し

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

区分 換地区名	一時利用地の 指定予定年度	換地計画の決定 予 定 年 度	換 地 処 分 予 定 年 度	備 考

第6節 換地処分の時期に関する特則

該 当 な し

第 10 章 事業費の総額及び内訳

1. 総括表

(第 26 表－1)

事 項	事 業 費	事 業 内 容	備 考																						
	百万円																								
工 事 費	817.0	堤体工、取水施設工、洪水吐工、仮設工	負担割合 (単位 %) <table><tr><th rowspan="2"></th><th rowspan="2">国</th><th rowspan="2">県</th><th colspan="2">地 元</th></tr><tr><th>市町村</th><th>農家</th></tr><tr><td>事業費</td><td>55</td><td>30</td><td>14</td><td>1</td></tr><tr><td>工事雑費</td><td>0</td><td>100</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事務費</td><td>0</td><td>100</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>		国	県	地 元		市町村	農家	事業費	55	30	14	1	工事雑費	0	100	0	0	事務費	0	100	0	0
	国	県					地 元																		
				市町村	農家																				
事業費	55	30		14	1																				
工事雑費	0	100		0	0																				
事務費	0	100		0	0																				
測 量 及 び 試 験 費	34.0	測量、地質調査、実施設計、家屋調査等																							
用 地 及 び 補 償 費	17.0																								
計 (事業費)	868.0																								
工 事 雑 費	17.0	(事業費) × 2.0%以内																							
地 方 事 務 費	44.0	(事業費+工事雑費) × 5.0%以内																							
合 計	929.0																								

2. 工事費内訳表

(第26表-2)

事 項	事 業	費	金 額	単 位 当 り 費 用	備 考
			(千円)		
(1) 堤体工	堤 長	L = 278.6 m	515,000	1,848,528 円/m	
(2) 取水施設工	斜 樋	L = 12.1 m	7,000	578,512 円/m	
	底 樋	L = 24.2 m	37,000	1,528,926 円/m	
	緊急放流施設	L = 10.0 m	9,000	900,000 円/m	
(3) 洪水吐工	延 長	L = 55.8 m	139,000	2,491,039 円/m	
(4) 仮設工	仮 設 道 路	L = 504.1 m	110,000	218,211 円/m	
小 計			817,000		
合 計			817,000		

第11章 効 用

1. 総括

(1) 総費用総便益比及び所得償還率の総括

(第27表-1)

区分	算定式	数値	備考
総費用	③=①+②	688,399 千円	
当該事業による費用	①	726,045 千円	
その他費用（関連事業＋資産科価額＋再整備費）	②	-37,646 千円	
年償還額	④	626 千円／年	
うち機能向上分	④'	－ 千円／年	
年総効果（便益額）	⑤	82,565 千円／年	
現況年農業所得額	⑥	440 千円／年	
年増加農業所得額	⑦	-57 千円／年	
評価期間（当該事業の工事期間＋40年）		46 年	
割引率		0.04	
総便益額（現在価値化）	⑧	1,724,593 千円	
総費用総便益比	⑨=⑧÷③	2.50	≧1.0
総所得償還率	⑩=④÷⑥×100	142.3%	≦20% ※地元行政区にて支払う
増加所得償還率	⑪=④'÷⑦×100	－ %	

(マニュアル 第1表)

(2) 総費用の総括

(単位：千円) (第27表-2)

区分	施設名 (又は工種)	①事業着工時点 の資産価額	②当該事業費	③関連事業費	④評価期間における 再整備費	⑤評価期間終了時点の資 産価額	総費用⑥=①+②+③+ ④-⑤
県営事業	堤体工	0	487,471	0	0	37,595	449,876
	取水施設工	0	88,649	0	9,133	9,147	88,635
	洪水吐工	0	149,925	0	23,953	23,990	149,888
	計	0	726,045	0	33,086	70,732	688,399

(マニュアル 第2表)

(3) 年総効果額及び年増加所得額及び現況年総農業所得額

(単位：千円) (第27表-3)

効果項目 \ 区分	年総効果（便益）額	年増加農業所得額		現況年総農業所得額	備考
			うち機能向上分		
作物生産効果	—	—	—	—	
維持管理費節減効果	△ 64	△ 57	—	—	
災害防止効果	82,629	—	—	—	
合計	82,565	△ 57	—	—	

(マニュアル 第3表)

(4) 農家負担年償還額の総括

(単位：千円) (第27表-4)

項目		事業費 ①	負担率 (%)				農家負担額 ③=①×②	年賦金率 ④	農家負担年償還額 ⑤=③×④	備考
			国	都道府県	市町村	農家 ②				
事業費（工雑除く）		868,000	55	30	14	1	8,680	0.07212	626	
小 計		868,000					8,680		626	
工事雑費		17,000	0	100	0	0	0		0	
事務費（無利子）		44,000	0	100	0	0	0		0	
小 計		61,000					0		0	
合 計		929,000					8,680		626	
関連事業										
	計									
合計		929,000					8,680		626	

(マニュアル 第4表)

第 1 2 章 関連する事業

該当なし

第 1 3 章 現況・計画平面図

1. 計画平面図・・・・・・・・・・別途図面添付
2. 主要構造図・・・・・・・・・・別途図面添付